

# 箱根ラリック美術館 冬の特別展示 「ヌーヴォーの灯りとデコの光り – 空間で感じるイルミネーション」

期 間 2014年12月20日(土)～2015年2月28日(土)

2014.10

ルネ・ラリック（1860-1945）が活躍した時代、ヨーロッパを中心に、ふたつの新しい装飾スタイルが生まれました。19世紀末から20世紀初頭にかけて一世を風靡したアール・ヌーヴォーと、1910年代半ばから主流となっていたアール・デコです。箱根ラリック美術館では、今年の冬の特別展示として、アール・ヌーヴォーとアール・デコのテーマに沿って、ふたつの会場でイルミネーションを展示いたします。

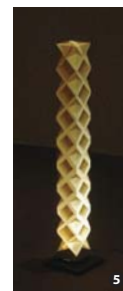
## アール・ヌーヴォー：ベル・エポックの部屋



①ルネ・ラリック作  
ランプ「孔雀」1910年  
②ベル・エポックの部屋

草花などの自然をモチーフとし、しなやかな曲線が特徴のアール・ヌーヴォーは、文字通り“新しいアート”として流行しました。このアール・ヌーヴォー期の照明作品を、常設展示室1階にある「ベル・エポックの部屋」で紹介いたします。マントルピースやテーブル、椅子など、アール・ヌーヴォーの家具を使用した、19世紀末の屋敷の一室を移築復元した佇まいの中で、ラリックと同時代のガラス工芸家ドーム兄弟の照明作品を合わせて展示。しっとりと落ち着いた灯りで、観る人を華やかなベル・エポックの時代へと誘います。

## アール・デコ：企画展示室



③柴崎幸次作品展示イメージ  
左/「三階菱の行灯1」  
右/「車輪のイメージ」  
④ルネ・ラリック作  
シャンデリア「ケシ文様」1930年  
⑤柴崎幸次作  
柴崎幸次作「くぼんだ積木1」

アール・ヌーヴォーに続いて流行したアール・デコは、曲線と直線を巧みに組み合わせてダイナミックに描くスタイルです。この時代に入るとラリックは、ガラス工芸家に転身し、数多くのアール・デコ調の作品を制作しています。美術館2階の企画展示室では、ラリックのアール・デコ作品と、日本の新進気鋭の和紙照明作家、柴崎幸次の作品とを組み合わせご紹介いたします。平面なのに凹凸に見える幾何学文様が特徴の柴崎の作品。凛としたラリック作品との見事なコラボレーションがご覧いただけます。

今年の冬は、今までにない大人のイルミネーションで、アール・ヌーヴォーとアール・デコを空間で感じながらお楽しみいただけます。



# 箱根ラリック美術館 冬の特別展示 「ヌーヴォーの灯りとデコの光りー空間で感じるイルミネーション」概要

期 間 2014年12月20日(土)～2015年2月28日(土)  
会 場 箱根ラリック美術館(ベル・エポックの部屋、企画展示室)  
出展作品 ルネ・ラリック作  
ランプ「孔雀」1910年  
シャンデリア「ケシ文様」1930年 他  
柴崎幸次作  
「三階菱の行灯 I」  
「車輪のイメージ」  
「くぼんだ積木 I」 他  
協 力 柴崎幸次(敬称略)

## 柴崎幸次(しばぎきこうじ)プロフィール

京都出身、1964年生まれ。愛知県立芸術大学美術学部デザイン・工芸科デザイン専攻准教授。平成16年美濃和紙あかりアート大賞、平成18年「第46回日本クラフト展」読売新聞社賞受賞。主な展覧会は、平成22年古川美術館分館爲三郎記念館(名古屋市)にて「和紙の灯りあそび」展開催。平成24年アキテーヌ博物館ギャラリー及びサンレミ教会(仏・ボルドー)にて「日本文化伝統と現在展」出品。平成25年「和紙の灯りあそび・旧岩崎邸」など。その他、文化財建造物等において照明展を行っている。

## 柴崎幸次作品について

「Nightface series」は、和紙を何層にも重ね貼りし、透過した光の陰影の差で不思議な立体感を創出する照明器具。この作品は明るい場所に置くと和紙に包まれた白い箱に見えるが、暗い環境で内部の照明を灯すと複雑な「だまし絵」のような立体感が現れ、より暗い環境になると立体感はさらにリアルで迫真性が表現される。



## ショップ「PASSAGE(パッセージ)」にて特別展示関連グッズの販売も

雑貨のセレクトショップ「PASSAGE(パッセージ)」では、冬の特別展示に合わせて、灯りを楽しむグッズの販売を予定しています。中でもおすすめは、LEDで灯るアロマキャンドル「フレームレスフリッカー キャンドル」。外側は香りをつけた本物の蠟で出来ていて、中の明かりはLEDライトになっている不思議なキャンドルです。そして、もうひとつのおすすめはモザイクガラスの「フレームレスフリッカー ティライト」。どちらもLEDのオレンジ色の光がゆらゆらと灯ります。ほんのり漂うアロマの香りと、やさしいオレンジの明かりが、安らぎのひとときを与えてくれます。



やさしく光がゆらくLEDのアロマキャンドル



LALIQUE MUSEUM, HAKONE

# 箱根ラリック美術館 開館10周年記念企画展 「ミュシャとラリック」

2014.10

期 間 2015年 4月25日(土)～12月13日(日)

箱根ラリック美術館では、開館10周年記念企画展「ミュシャとラリック」を2015年4月25日(土)～12月13日(日)まで開催します。

## 企画展概要

ポスターのミュシャとジュエリーのラリック。二人は、アール・ヌーヴォーの寵児として並び称されてきました。優美な女性像を描いたことだけでなく、同じ年（1860年）に生まれ、大女優サラ・ベルナルルに見出され一躍表舞台に踊り出た等、共通点が少なくありません。また、共に1900年のパリ万博で才能を発揮、それぞれのキャリアで最初のピークを迎え、その後人生の転機を迎えるのです。

ミュシャとラリックを並べて語る世界初の展覧会。激動の時代を、女優サラやパリ万博等のキーワードで切り取りながら、両作家の精神性まで紐解きます。



アルフォンス・ミュシャ(1860-1939)  
©尾形コレクション蔵

## 概要

名 称 箱根ラリック美術館 開館10周年記念企画展  
「ミュシャとラリック」

期 間 2015年4月25日(土)～12月13日(日)

会 場 箱根ラリック美術館(常設展示室、企画展示室)

出展作品 ルネ・ラリック作品  
アルフォンス・ミュシャ作品

協 力 尾形寿行コレクション、切手の博物館、京都工芸繊維大学附属  
図書館・美術工芸資料館、堺市立文化館 アルフォンス・ミュシャ館  
(五十音順、敬称略)



ルネ・ラリック(1860-1945)



美術館入口



## 施設概要

施設名称	箱根ラリック美術館 (LALIQUE MUSEUM, HAKONE)
所在地	〒250-0631 神奈川県足柄下郡箱根町仙石原186番1 TEL : 0460-84-2255 FAX : 0460-84-2271 URL : www.lalique-museum.com
開館日	2005年3月19日 (土)
営業時間	午前9時～午後5時 (入館は午後4時半まで)
営業日	年中無休 (展示替のため臨時休館あり)
美術館入館料	大人 1,500円 高校生、大学生、シニア (65歳以上) 1,300円 小学生、中学生 800円 ※レストラン、ショップ、庭園の入場は無料です
施設内容	敷地総面積 13,004.50㎡ 美術館棟 2,601.30㎡ ミュージアム・ゲート 70.78㎡ 特別展示 オリент急行サロンカー カフェレストラン・LYS 1,083.45㎡ 店内100席 テラス100席 ショップ・パッサージュ 827.93㎡ 1階90坪 2階30坪 庭園 (池、小川、蝶の森)
専用駐車場	第一駐車場 (100台) 1日300円 第二駐車場 (100台) 無料
アクセス	電車・バスをご利用の場合 ■箱根登山鉄道「箱根湯本駅」より、箱根登山バス「湖尻・桃源台」行きにて約30分 「仙石案内所前」下車すぐ ■小田急箱根高速バス「新宿駅」より約120分「箱根仙石案内所」下車すぐ ■箱根施設めぐりバス「箱根ラリック美術館」下車すぐ ■小田急箱根高速バス羽田線「羽田空港」より「横浜駅東口バスターミナル (そごう横浜店)」 「御殿場駅」経由約150～165分 「箱根仙石案内所」下車すぐ 車をご利用の場合 ■東名御殿場I.C.より乙女峠経由、仙石原まで約20分
設計・施工	鹿島建設株式会社、株式会社丹青社
事業主	株式会社ル・ミューゼハタ
本社所在地	東京都中央区銀座4丁目4番5号
代表者	代表取締役 簀 功泰

本件及び取材等に関するお問い合わせ先 箱根ラリック美術館PR担当:株式会社小田急エージェンシー tel : 03-3344-5988  
貴誌(紙)・貴番組にて掲載いただく際の読者からのお問い合わせ先 箱根ラリック美術館 tel : 0460-84-2255



LALIQUE MUSEUM, HAKONE